

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）		
目標1 一人一人が充実感を味わうための指導・支援の充実	健全な心と体を育む保育の充実 1. 遊びの充実と体力向上 ①体力アッププランの作成といきいき運動遊びの工夫を職員間で検討し毎朝実施し、効果を体力測定で検証、課題抽出 ②年齢で育てたい力を育む遊びを職員間で検討実施しPDCAサイクルにて遊びの検証を各年齢ごとに実施 2. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成し、支援をレベルアップ ②ケース検討会議を隔月に実施し、共通理解と支援の検討を実施 ③関係機関（発達支援センター、言葉の教室、保健センター）と連携した（年2回）支援の充実	1. ①園全体で忍び修行と称することで、やる気を向上させ毎日実施、体力測定2回（7月・11月）をグラフ化し数値向上を確認。家庭での取り組みをカードにて推進し保護者意識が向上 ②保育実践や各種計画時に育てたい力を明確にし遊びから育つ子どもの姿を検証し、課題の改善、実践を繰り返す、職員間交流により保育力が向上 2. ①支援児の個別支援計画を作成（11人分）、支援方法を明確化、PDCAサイクルにて支援が充実 ②ケース検討会議を実施（6回）し支援方法を検討。園全体の協力体制と支援が向上し支援児が成長 ③訪問支援（12回）や各機関との情報交流を通し（2回）連携強化と助言を活かし支援方法が充実	T2	
目標2 円滑な園運営の推進および質の高い保育の提供	保育事業の充実と業務の見直し 1. 職員の資質向上のための園内外研修の実施 ①保育研究会講演会、専門研修、各種研修への参加（年1回）による学びの向上 ②保育研究会（年5回）へ実践資料を作成のうえ参加し、他園と実践交流にて研究内容を検証し保育へ活用 ③保育課程と10の姿の内容周知及び、各種行事や計画について見直し改善を検討 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流および中学校区教育懇談会への参加 ②連絡会、スマイルブック引継会、支援シート等にて小学校と連携を強化	1. ①保育研究会講演会（6月）、各種県協研修等に参加し学び、職員間共有し保育に活用 ②全担任が実践資料を作成（4回）し自身の保育の課題と改善の視点や手立てが向上。研究会（5回）にて同年齢の学びを確認。副園長中心に研究発表を実施（1/28）し、県下の保育士と学びを共有 ③参考文献と実践から子どもの姿を10の姿を意識した保育を実施 2. ①中学校区教育懇談会（2回）、昭和小・平中職員が園参観（7月）、昭和小支援学級参観（7, 11月）参加 ②幼保小連絡会（10月）、引継会（2月）を実施し、就学支援シートにて就学児の引継をしスムーズな移行を実施	T2	
目標3 親育ち4363と連携した親支援	親支援の充実 1. 生活の見直しと子どもの育ちの周知 ①園だより（年3回）やクラス懇談会（年2回）で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②各年齢に応じた内容を検討し、生活のあゆみなどを活用し、生活の見直しを保護者へ啓発 2. 子育て支援の充実 ①登降園時、各種おたよりや個別懇談会（年1回）等を通じて保育の理解促進と、日常の子どもの姿を保護者と相互理解し、子育て支援を推進 ②保護者に不適切な養育等が疑われる場合があれば市や関係機関と連携し、虐待防止や養育改善 ③支援児保護者と個別懇談にて受容促進（年2回）	1. ①各種通信（3回）、クラス懇談会（6・2月）で早寝早起き朝ごはん、体作りの必要性を啓発し、生活リズムに対しての保護者意識が向上 ②生活のあゆみ（3回）の数値をグラフ化し、年齢の育ちに対する保護者の理解と意識的な関わりが増加 2. ①積極的な声掛けと個別懇談会（1回）にて保護者との信頼関係構築、悩みの共有や子育て支援を推進 ②保護者の言動や対応、園児の身体観察を実施。要保護児童には特に注意し把握、子ども支援課相談員や子相への報告連携を密に安全確保に尽力 ③支援児の保護者と必要に応じ個別懇談を実施（一人に2回以上）。就学や気になる姿について相互理解	T2	
目標4 子どもの健全な食生活と心身の生活を図るための食育の推進	食育基本計画に基づく食育指導の推進 1. 食育指導の充実 ①給食委員会（年5回）、調理研（月1回）、食育研（年6回）の研修結果を保育に反映 ②年齢に合った栽培活動（年5回）と園の行事や生活に適した給食の提供 ③おたより等で食育に関する情報提供の実施（年2回） 2. 健康的な食事に対する意識の向上 ①アレルギー児への適切な対応及び環境整備と、食品管理（毎日）の徹底による安心・安全な給食提供 ②感染症拡大防止のための消毒・給食後の掃除の徹底 ③レシピの配布による、家庭での食への関心向上と連携	1. ①給食委員会（5回）、調理研（10回）に参加し研修での学びを食育指導や調理の向上へ活用 ②ジャガイモ、夏野菜、サツマイモなどを栽培収穫し、行事お供えや給食食材として使用し食育を推進 ③園だよりやクラス通信などで栄養素やマナーに関する情報を提供（3回）し親子で食への関心が増幅 2. ①安全確実な調理と、調理員と保育士との確認を毎日行い保育士の入替時の伝達確認の徹底を強化 ②毎日給食・おやつ後のつい立、机の消毒と床の水拭きを実施し感染予防を徹底 ③サンプル給食の展示（8回）、同時にレシピ配布、給食ができるまでの工程を写真掲示をし、親子の会話が増加し家庭での食育を推進	T3	
目標5 地域に根差した園運営と危機管理の徹底	地域と連携した園運営の充実 1. 地域の環境や人材を生かした保育の実施 ①園庭開放、中央児童館での出張保育などで、未就園児親子の触れ合いの場の提供 ②運営懇談会（年2回）にて園活動の周知と理解 2. 危機管理に対する保育士の意識向上 ①避難訓練・交通指導（月1回）、防犯訓練（年4回）、午睡時呼吸確認（毎日）の実施 ②新型コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症に対する正しい理解と感染予防の消毒等の徹底 ③玩具や給食の誤飲・誤食予防の体制強化	1. ①未就園児対象園庭開放を4回実施。中央児童館へ出張保育を実施し（1月）好評を得た ②運営懇談会（6・2月）、運動参観日（10月）や各種手紙の配布により園活動の周知と理解を促進 2. ①避難訓練、交通指導（毎月）、防犯訓練（4回）、午睡時呼吸確認（毎日）実施し、命を守る訓練から園児の行動力と職員の危機管理の見直しと意識が向上 ②各種感染症に対する知識をアップデートしながら、保護者への注意喚起を手紙やメールにて配信。園内の感染予防と消毒作業を徹底実施 ③玩具を口に入れるため、常に安全確認の徹底、給食の誤食を防ぐため連携と複数での確認を徹底強化し安全確保	T3	
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称

小泉保育園

補職名・氏名

園長 加藤 裕子

組織目標兼管理職個人目標

課題		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成し、いきいき運動遊びを毎日実施し、計画的な取組みにより体幹や足腰を強化 ②朝の運動遊びコーナーを継続し、未満児から年長児までが楽しめる内容の定期的な見直しと改善 ③ボール投げ、立ち幅跳び、握力を測定(年1回)。成果と課題を参考に体力作りについて保護者に情報提供 2. 保育内容の充実 ①保育士研究発表会に向け、10の姿を意識した遊びの見直しと保育研究会各年齢部会の充実による保育士の資質向上 ②全体的な計画を踏まえた保育を実施し、年案、月案、週案、個別計画に反映し保育内容の充実と改善	1. ①「体力アッププラン」の年間計画を基に毎日実施。器具の使い方を工夫し動きの変化を楽しみながら意欲的に体を動かす姿が増加。足腰強化に連動 ②年間を通し季節や興味に合わせて改善。年長児が中心となり器具を準備しどの年齢も積極的に参加 ③体力測定を実施し(7月)、昨年度との比較グラフを作成し、園児の実態を保護者懇談会で報告(2月) 2. ①全員が毎回資料を作成することで保育の振り返りや見直しができ、保育士の意識の向上と資質向上が実現 ②クラスの実態を踏まえた保育内容の検討と実践。個別の援助、環境構成また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した保育を実施	T2
	一人一人が充実感を味わうための指導、支援の充実			
目標2	保育事業の充実と業務の見直し	1. 小泉・北野の統合に向けた検討の推進 ①統合に向け、施設、設備及び保育内容について、あり方検討委員会との双方向での情報共有 ②北野保育園との交流を深め、双方の保育内容の共通理解と、今後のすり合わせに向けて職員間で共有 ③必要に応じた保護者への情報提供 2. 業務負担軽減の推進 ①行事計画等、時間内の事前打ち合わせの実施と、報告事項の掲示、朝礼周知による職員会の時間短縮 ②定期的なローテーションの見直しによる安全に配慮した職員配置と業務負担軽減の推進	1. ①あり方検討委員会における検討内容を職員間で周知し共有。検討事項等について意見聴取 ②交流及び保育内容等のすり合わせについて園長間で検討。交流事業はコロナにより中止 ③保護者に対する具体的な情報提供なし 2. ①職員会前の事前打ち合わせにより職員会の時間短縮の実現。報告事項を配布、掲示。朝礼で周知、伝達を徹底 ②基本的なローテーションは最善の形態で実施。子どもの出席状況や感染症の流行に合わせて臨機応変な配置の見直しと、事務時間を確保	T3
	統合に向けた検討と業務負担軽減の実施			
目標3	要支援児保育の充実	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し、目標達成に向けた手立てと記録を基に、支援コーディネーターのアドバイスを活かした支援のレベルアップ ②ケース検討会議(月1回)を開催 ③保護者との個別懇談の充実(年2回)で家庭と密な連携 ④関係機関(発達支援センター、ことばの教室、保健センター、支援課)と連携(年3回)した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流2回実施 ②中学校区教育懇談会(年2回)、連絡会(年1回)スマイルブック・就学支援シートを活用しての小学校へスムーズな移行の実施	1. ①毎週の記録を基に個々の姿を把握。個々の目標に向けた支援の指導の充実と改善 ②検討会議資料等の改訂箇所及び記載方法を確認、支援児研の報告を実施(2回)。コーディネーターが主となり個々の週案を指導、助言 ③個別懇談実施(1回)。支援児の保護者との合意形成(15人)、就学に向けた懇談(12回)を重ね連携強化 ④保育所等訪問支援(15回)、発達支援センター訪問(3回)、ことばの教室訪問(5回)、保健センター資料提供(11人)及び支援課訪問(4回)により支援方法の向上 2. ①コロナの影響により中止 ②連絡会、引継ぎ会にて学校、園、家庭と情報交換し連携強化。就学に向けたスムーズな移行の実現	T2
	要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携			
目標4	安全な保育の実施	1. 危機管理体制の強化 ①避難訓練、交通指導(各月1回)、防犯訓練(年4回)の実施と振り返り。引き渡し訓練では保護者や地域と連携し、災害時や緊急時における職員の意識向上 ②施設、遊具の安全点検(月1回)を実施。ヒヤリハットの共通理解による早急な対応と環境整備 2. 感染症対策(新型コロナ、ノロ等)に関する情報を職員及び保護者と共有し、マスク着用、消毒等感染予防の徹底と、マニュアルの再確認、職員連携を充実 3. アレルギー児に対し、調理員、保護者、保育士が連携し、毎日の献立表の確実なチェックによる誤食防止など、安心・安全な給食を提供	1. ①計画に基づき実施(交通指導5回、防犯訓練1回)。訓練後の職員連携の再確認により安全意識が向上。人数確認の徹底と保育士自らセルフチェックによる虐待に対する意識改革を実施 ②職員による安全点検(毎週1回)、業者による定期点検を実施。危険箇所、怪我の発生はその都度職員間で周知、再発防止策検討及び環境整備の徹底 2. コロナ発生状況と拡大防止について随時メールや文書で情報提供。感染予防の徹底と保育室の入念な清掃及び消毒。保育士の定期的な抗原検査を実施 3. 朝礼時にアレルギー給食の確認、配膳時には声掛けとチェック表で誤食を防止。毎日食品の確実な検収と衛生管理で安心安全な給食を提供	T3
	安心安全な保育の実施と危機管理の徹底			
目標5	親支援の充実と地域の連携	1. 早寝・早起き・朝ごはんの推進の為園だより(年2回)や懇談会資料(年2回)で情報提供し大切さを周知 2. 子育て支援の充実 ①登降園時、個別懇談会(年1回)、クラスだより、こいずみっこだより(月1回)等で子どもの日常の様子を伝え、保護者と相互理解 ②成長のあゆみを活用し、生活の見直しを推進。結果を集計し基本的生活習慣確率の大切さを保護者に周知 ③保護者に不適切な養育等が疑われる場合は市や関係機関と連携し、適切な対応で虐待予防や養育改善 3. 地域の連携と世代間交流を通した保育の実施。北野保育園、老人会、公民館、交流センター、小中学校等各施設と交流。読み聞かせボランティアの活用	1. 懇談会資料において生活習慣全般について啓発。園だより(8回)、懇談会資料にて周知 2. ①主に送迎時とクラスだよりの返信欄で交流し、子どもの姿を共有しながら連携を強化。園全体の様子はこいずみっこだよりを発信 ②保護者に成長のあゆみの各項目について期ごとにチェックを依頼。子どもの成長の確認と見直しに活用。結果を集計し成果と課題を保護者に周知 ③複雑な環境にある家庭(4件)について、子ども支援課と連携し要対協に毎月報告 3. コロナ感染拡大状況の中、地域との交流を徐々に再開(公民館展示、交流センター訪問、読み聞かせボランティア)。	T3
	親育ち4363と連動した親支援と地域との連携の充実			
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		(目標設定)	(成果)	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称

共栄保育園

補職名・氏名

園長 鈴木 恵美子

組織目標兼管理職個人目標

課題		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. いきいき遊び、運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」と足腰強化を中心とした年齢ごとの年間計画を作成し、期毎の反省をもとに教材を工夫しながら運動遊びを毎日実施、効果を測定 ②「幼児の遊びや生活に取り入れたい46の動き」を意識した運動遊びの実施 ③保護者への健康・体力づくりの情報を提供 2. 発達を促す保育の充実 ①実態に合った保育内容の工夫と展開。縦の学年交流による保育の確認 ②ケース検討会議（月1回以上）を開催し、支援児や気になる子の共通理解と支援の充実	1. ①年間計画に基づき実践し、子どもの姿や期毎の反省を確認後、内容を再検討。園外保育や縄跳び・ボール等遊びの工夫と雑巾がけ等日常で足腰強化。体力測定を実施(8月) ②③「幼児の遊びや生活に取り入れたい46の動き」を生活や遊びに意図的に取り入れ、運動会や参観等で成長を披露。健康や運動遊び等の大切さを園だより、クラスだよりで保護者に啓蒙 2. ①発達に合わせた保育を実践。縦の交流を職員会や学年会で実施(12回) ②ケース検討会議実施(12回)。職員共通理解で支援が充実。共通支援により子どもの成長と情緒の安定	T2
	一人一人が充実感を味わうための指導、支援の充実			
目標2	保育事業の充実と業務の見直し	1. 子どもの成長を捉えた適切な対応と業務の見直し ①保育研究会（年5回）と各種研修会への参加による保育士の資質向上 ②コロナ禍による通常保育や行事の見直し。保育の原点と安全を守った新保育様式の実施 2. 直接体験を通じた保育の工夫と実施 ①年齢ごとに見通しをもった栽培計画を立案。植物の生長から自然や食育への興味関心の増幅とキッズクッキングの実施 ②環境を生かした園外保育の実施 ③見通しをもった保育による季節の遊びの充実	1. ①保育研究会に各学年参加(各5回)、成果を保育士研究大会で発表し好評を得た。資料作成や、市外各種研修会に一人3回以上参加により資質向上 ②コロナ禍の保育や行事内容を常に検討、見直しその時期、その場にに合わせて実践。コロナ対応を活動ごとに週案に記入し安全を意識した保育を実践 2. ①年齢毎の計画をもとに栽培、収穫し給食室で調理後実食。食物への関心が増幅し食欲増進。コロナ対策の中、収穫野菜のキッズクッキング(3回)、おにぎりクッキング(2回)実施。家庭からも良い反響を得た ②園外保育を実施(40回) ③自然、小動物、四季の移り変わりを生活や遊びに意図的に取り入れ、心の育ちを育成	T2
	質の高い保育の提供			
目標3	要支援児保育の充実	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し保護者と懇談実施（年3回） ②保育所等訪問支援事業を活用し療育との連携と適切な指導の定着 ③関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター）と連携した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校職員との子どもの交流実施 ②中学校区教育懇談会（年2回）、連絡会（年1回）スマイルブック・就学支援シートを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①個別支援計画を作成(15名)し、個別懇談会を実施(3回)。子どもの支援の共通理解と次年度の接続 ②保育所等訪問支援事業実施(7回)。療育との連携で指導の確認と支援充実 ③発達支援センターと言葉の教室(16名)、保健センター(23名)と連携。支援内容を見直し、計画、実践。連携による確かな支援となり成長を促進 2. ①就学先職員(小学校4校)と対面、電話で子どもと保護者について交流 ②中学校区教育懇談会参加(2回)、幼保小連絡会、スマイルブック引継ぎ(各1回)、支援シート作成(6人)によりスムーズな移行に尽力	T3
	要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携			
目標4	親支援の充実	1. 子育て支援センターの充実 ①支援センターの役割を整理・記録 ②コロナ禍で行う行事を見直し、事業内容を工夫。安全、安心な行事や園庭開放を実施 ③食育講座とサンプル給食掲示による食育の推進 2. 親支援の推進 ①園だよりや懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知（各2回） ②年齢に応じた生活習慣アンケートを実施し（年1回）結果を分析して周知 ③保護者との個別懇談（年1回）で家庭と連携	1. ①支援センターの保育業務内容を整理、記録 ②コロナ禍で安全・安心の運営を支援センター職員と相談、工夫し実践。感染拡大を抑制 ③食育講座(2回)、サンプル給食実物(2回)、写真提示(5回)を実施。来所者から好評を得る。 2. ①早寝、早起き・朝ご飯の大切さ重要性を園だより、懇談会等で保護者に周知(3回) ②生活習慣アンケート実施。結果を分析後、懇談会(2月)で保護者に周知 ③個別懇談会を実施(8月)。年間を通し必要に応じ個別懇談を設け、保護者との信頼関係の構築、密な連携による保育の推進	T3
	親育ち4363と連動した親支援の充実			
目標5	安全な保育の実施	1. 危機管理に対する職員の資質向上 ①交通指導と避難訓練（毎月）、防犯訓練（年4回）、午睡時確認（毎日）の実施と振り返り ②地域と連携した引き渡し訓練（年1回）の実施 ③施設・遊具の安全点検（月2回）を実施し、危険箇所の把握と早急な対応を実施 ④新型コロナウイルス感染症に対する職員の意識向上と感染予防の徹底。情報収集に努め、早期対応 2. 安心・安全な給食提供 ①食品管理の徹底による安心・安全な給食提供 ②食物アレルギー児への適切な対応の徹底	1. ①交通指導、避難訓練(各12回)、防犯訓練(3回)、午睡確認(毎日)を実施。職員間で振り返り、改善点を実践 ②幼小中と連携した引き渡し訓練を実施(5月) ③安全点検を実施(毎週)し、危険箇所の早期把握による迅速対応で安全な保育を実施 ④園内のコロナ対応を常に実施。職員の感染予防と早期対応の徹底、定期的な自己検査の実施 2. ①調理前後ともに食品管理の徹底による、安心・安全な給食の徹底。食べやすい調理の工夫もあり、残菜が減少 ②チェック表の事前確認(3回)、当日確認(朝礼・配膳・直前)の徹底で安心な給食提供、誤食なし	T3
	打ち合わせや訓練による、安全安心な保育の実施			
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	北野保育園
補職名・氏名	川西 有潔

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）		
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 一人一人が自分を発揮できる指導、支援の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成。自ら体を動かしたくなるような内容と環境を工夫し実施 ②教育委員会と連携した、体力測定(年1回)を実施 成果、課題の確認をしいきいき運動に反映 2. 発達に合わせた保育の充実 ①保育研究会発表に向け、各年齢に合わせた保育内容の検討と実施 ②季節、環境を生かした体験活動や遊びの実施（自然・体験活動・食育活動・造形活動・世代間交流） ③PDCAサイクルを意識した全体的計画の実施と見直しの検討	1. ①体力アッププランを随時見直し実践。地域の自然環境を利用した運動遊びの工夫。縄跳びや竹馬等継続的な取り組みが意欲の増加や達成感となり子ども達の自信の向上に寄与 ②雲梯やドッジボールなど体力測定での課題（握力、投力など）がつくような遊びを工夫 ③月1回の園だよりにて健康の情報を提供 2. ①年5回の研究をまとめ研究発表会にて発表。各保育士が資料作りと交流を重ね保育の質が向上 ②畑の野菜作り(年4回)を通して地域交流。神社や喜多緑地など地域の環境を保育に積極的に活用 ③次年度に向け自己評価や全体計画を常に振り返り、検討及び見直しを実施	T2	
目標2 保育事業の充実と業務の見直し 小泉保育園との統合に向けた検討と業務負担軽減のための対策検討	1. 統合に向けた検討の推進 ①あり方検討委員会を通して情報を収集。多治見市の推進事項を職員に周知し検討 ②こども園理解のための学習の実施 ③小泉保育園との交流を実施。互いの保育内容の理解とクラスたよりを通じて保護者へ周知 2. 業務負担軽減のための課題整理と対応策の検討 ①定期的なローテーションの見直しによる安全に配慮した職員配置と負担軽減の推進 ②伝達事項を可視化し、協力体制の充実と保育準備の簡素化の検討 ③日常的な意見交換、話し合いの時間を確保し、職員会時間を短縮	1. ①②あり方検討委員会に参加し、こども園化に関する検討内容を職員間共有 ③コロナにより交流事業を中止(10月)、園長間において意見交換 2. ①コロナ等により病休職員が頻繁に発生するも、感染対策、予防及び安全な園運営を最優先し臨機応変に対応。職員間の日常的なねぎらいの声かけ、休職慰労など意欲の低下防止に配慮 ②伝達、共通理解事項を掲示し視覚化。変更事項は声を掛け合い確認し、協力体制を強化し保育実施 ③職員会内容を精査し、事前周知により職員会時間を短縮。ヒヤリハット表利用やミニ研修会など、短時間で効果的に行えるよう工夫	T3	
目標3 要支援内容の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 支援の充実 ①個別支援計画を作成し、保護者との個別懇談(年2回)で家庭と連携した保育を実施 ②ケース検討会議を必要に応じ開催。職員間で共通理解し保育を実施 ③関係機関（発達支援センター、ことばの教室、保健センター）と連携し保育を実施 ④訪問等支援事業を受け、支援をレベルアップ 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流を年2回実施 ②中学校区教育懇談会(年2回)、連絡会(年1回)、就学支援シート、スマイルブックを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①個別支援計画を作成し、保護者懇談(2回)で家庭と連携し子供達の成長を共有 ②ケース会議を随時実施。職員会で検討し共通理解 ③発達支援センター、ことばの教室来園(各1回)保健センター発達相談利用で療育機関へ繋がるなど連携を図りながら保育を推進 ④訪問等支援事業を実施(7回) 2. ①小学校支援学級担任を訪問(1回)、電話交流(1回)、運動会参加など、職員間の交流を実施 ②小学校へのスムーズな移行に向け中学校区教育懇談会(2回)、連絡会、スマイルブック面談(2名)を実施。支援シート作成(2名)	T2	
目標4 安全な保育の実施 打ち合わせや訓練により安全、安心な保育の実施	1. 危機管理体制の強化 ①避難訓練、交通安全指導、施設・遊具点検(月1回) 防犯訓練(年4回)実施。災害時の避難方法を引き取り訓練で保護者や地域と連携して実施 ②職員会にてヒヤリハットの交流。共通理解し環境を整備 2. 新型コロナウイルス感染症対策 ①保育室の換気、清掃、消毒を実施 ②情報収集感染防止対策を検討。職員間で共通理解と保護者へ協力依頼し安全な保育の充実 3. 安心安全な給食の提供 ①調理員、職員、保護者と連携し、アレルギー児の誤食予防体制強化 ②衛生・食品管理の徹底と安心安全な給食提供	1. ①小中学校と連携した引き取り訓練を実施(5月)。避難訓練(毎月)、交通安全指導(毎月)、防犯訓練(3回)を実施。職員会にて課題を改善 ②各クラス、ヒヤリハット表を作成。職員会(月1回)にて周知し危険個所の共通理解 2. ①換気、清掃、消毒を毎日実施し感染対策徹底 ②園医のアドバイスや最新情報を収集し、活動等検討し保育を実施。随時メールや手紙にて保護者に協力を依頼 3. ①誤食発生時に検証。連絡方法や視覚表示を追加するなど改善し職員へ周知徹底。アレルギーへの職員の意識の向上を促進 ②徹底管理に努め、常に検証・改善を実施	T3	
目標5 地域連携と親支援の充実 地域との連携を生かした保育所運営と子育て支援事業の充実	1. 地域の環境や人材を生かした保育の実施 ①地域と連携をした保育の実施(畑・地域老人会) ②地域の散歩コースをクラスだよりで情報提供、地域の資産を保護者に啓発 2. マイ保育園幼稚園事業の拡大 ①保健センターと連携して乳幼児健診に出向き、PRを実施。未就園児へ園開放を年8回実施 3. 早寝・早起き・朝ごはんの推進 ①園だより(年3回)や懇談会(年2回)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②成長のあゆみ、個別懇談、各種たよりを通して保護者へ保育内容を周知。基本的生活習慣確立の啓蒙と一人一人の子育て力の向上推進	1. ①地域老人会と連携し畑での野菜の苗植え、収穫体験を実施(ジャガイモ、サツマイモ等) ②いきいき運動に地域の地域の自然を取り入れ、クラスだよりにて保護者へ発信(各学年) 2. ①保健センターへマイ保育園(2回)に出向きPR。園庭開放(5回)、園見学会(4回)を実施 3. ①園だより(5月)、懇談会(2回)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②園の行事写真(12枚)やクラスだよりにて保育内容を保護者へ周知。成長のあゆみや登降園時を利用して、保護者と成長の姿や悩みを日々共有。個別懇談会(7.8月)、保護者交交流会(2月)実施。保護者の子育て力が向上	T3	
b 独自目標加算 (任意設定) 例: 自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	市之倉保育園
補職名・氏名	園長 渡辺 真弓

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	課題	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 一人一人が充実感を味わうための指導、支援の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成し、体力向上を目指して年齢に合ったいきいき運動遊びを毎日実施、効果を測定(3月) ②季節、環境を活かした体験活動や遊びの計画と実施 ③保護者への遊び・健康・体力づくりの情報提供と促進 2. 発達に合わせた保育の充実 ①各年齢の発達・実態に合わせた保育内容の検討と改善・工夫の実施 ②職員のスキルアップを目指した園内研修・教材作成 ③生活習慣確立のため、通信・成長のあゆみ等を活用して情報提供と保護者支援・指導の実施	1. ①年齢に合った運動遊びを実施(毎日)。園外保育(50回)で体力向上。効果測定(3月) ②水遊びやどんぐり山散策、やぎとの触れ合いなど季節、環境を活かした体験活動や遊びの計画と実施 ③参観でボールを作り親子で遊び、園だよりでふれあい運動遊びを掲載(2回)し情報提供 2. ①職員会議等にて随時検討・確認し、環境設定や教材作成、発達・実態に即した保育を実施 ②園内研修を実施(10回)し、職員間で保育課題を共通理解し、保育士の資質向上 ③通信等で情報提供。個別に保護者相談・指導を実施	T2
目標2	保育事業の充実と業務の見直し 円滑な園運営の推進と保育士の資質向上	1. 保育事業の充実 ①保育研究会(年5回)・各種研修会への参加による職員の資質向上、保育内容の充実及び職員間の交流 ②保育主任を中心とした教材等の研究・作成、保育に関する知識・情報の共通理解等、園内研修の充実 2. 業務の見直し ①伝達事項を可視化・掲示する等、確実な情報共有の工夫 ②年齢間の円滑な連携にむけた、適時代表者会議開催 ③職員の勤務状況に合わせた定期ローテーション、シフト見直しと、安全に配慮した職員配置を検討、実施	1. ①運営委員を中心とした遊びの交流・検討を行い、研究会に参加。研究資料の検討・作成による保育士の資質向上。保育内容の充実及び職員間の交流 ②保育主任が中心となり、保育に関する知識・情報を共通理解(10回)、園内研修の充実 2. ①朝礼・その他の伝達事項を可視化・掲示して確実に情報を共有 ②代表者会議を随時開催。保育内容の検討・情報共有で年齢間の連携充実 ③安全、安心の園運営に配慮した職員配置実施	T2
目標3	要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成。保護者と面談(年2回)し、家庭と共通理解のもとで連携した保育を実施 ②ケース検討会議を開催(月1回) ③保育所等訪問支援事業を活用し適切な支援習得、資質向上 ④関係機関(発達支援センター、保健センター等)と連携した支援の充実 2. 幼保小連絡会(年1回)、就学支援シート、スマイルブック引継会、中学校区教育懇談会(年2回)等を活用して連携し、小学校への円滑な移行の実施	1. ①個別支援計画を作成し保護者と面談(年2回)。共通理解のもとで連携した保育を実施し成長を確認。 ②支援児担当、担任、支援コーディネーターを中心としたケース検討会議を開催(18回) ③交流・話し合いを通して適切な支援の確認・検討・習得し、保育に反映。支援内容の充実 ④関係機関との意見交流実施。連携した支援の充実 2. 中学校区教育懇談会実施(2回)。幼保小連絡会(年1回)、就学支援シート(4人)、スマイルブック引継会(5人)等を活用して連携し、小学校への円滑な移行の実施	T3
目標4	食育基本計画に基づく食育指導の推進 子どもの健全な食生活と心身の成長を図るための食育の推進	1. 食育計画の活用と見直し ①給食委員会(年5回)、調理研(月1回)、食育研(年6回)及び調理と指導の工夫による食育の推進 ②保護者へレシピ配布・サンプル給食紹介及び調理員による新しいレシピの考案 2. 直接体験を通じた保育の工夫と実施 ①栽培収穫(玉ねぎ・さやえんどう・ジャガイモ・サツマイモ・ピーマン・トマト・きゅうり等)による食への関心向上と食育指導 ②調理員と連携したクッキング・調理による食育推進 3. 食物アレルギー児への適切な対応及び衛生、食品管理の徹底(毎日)による安心・安全な給食の提供	1. ①給食委員会報告を職員に周知、調理と指導の工夫で食育推進。子どもの食欲増加 ②給食レシピ配布とサンプル給食の掲示で保護者の給食・食育への興味と意識が向上 2. ①野菜を栽培し給食で調理実食。又、家庭に持ち帰って家族で食べる等し食への関心向上と食育指導 ②おにぎり等のキッズクッキングや調理員と連携した調理による食育推進 3. アレルギーチェック表・毎朝の朝礼と配膳時に確認把握の徹底。衛生・食品管理の徹底と共に、安心・安全な給食を提供	T3
目標5	地域と運動した保育内容の充実 地域と連携した園運営と危機管理の徹底	①老人会交流(年2回)、公民館交流、ひよこ広場(年5回)、地域行事参加(年2回)を実施 ②園運営への理解と地域の連携を図る保育所運営懇談会(年2回)を開催、地域行事へ出席 ③どんぐりの森清掃事業の円滑な実施 ④災害時を想定した引渡訓練(年1回)、避難訓練と交通指導(年12回)、不審者訓練(年3回)の実施 ⑤新型コロナウイルス、ノロ等感染情報を地域と共有すると共に、感染予防の徹底 ⑥園だより(年12回)、クラスだより、いちのくらっこだよりにて、生活習慣の大切さ等を保護者に周知	①コロナ感染などにより中止行事が多い中、公民館交流実施(1回) ②運営懇談会開催(2回)、地域行事へ出席(2回) ③各関係機関と連携して円滑に実施(6月) ④引き渡し訓練(5月)、避難訓練(12回)、不審者侵入訓練(2回)実施。 ⑤地域(小学校)の感染状況を共有し、毎日の検温、消毒や換気等を実施し、感染予防の徹底 ⑥園だより(12回)、いちのくらっこだよりにて、クラスだより随時にて、生活習慣をはじめ保育内容等について保護者に情報提供、周知	T3
b	独自目標加算 (任意設定) 例: 自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	笠原保育園
補職名・氏名	園長 市原 浩代

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）		
健全な心と体を育む保育の充実 目標1 一人一人が充実感を味わうための指導、支援の充実	1. 関わる力の育成と環境構成の工夫 ①身近な自然や人と関わることの楽しさや喜びを味わう体験活動の実施 ②思いを言葉で伝え合うことのできる活動の工夫 ③夢中になって遊べるなかよし遊びの環境を工夫し、異年齢児との関わりや遊びを工夫する力を増進 2. 運動が「好き・楽しい・得意」になる保育の推進 ①園舎の環境を活かした「体力アッププラン」を見直し実施 ②多様な運動経験をさせる場の工夫と園外保育の充実 足腰鍛えマップの作成 ③保護者へ健康・体力づくりの情報を提供	1. ①園外保育などにより楽しさや喜びを味わう体験活動を通し、関わる力を促進 ②年齢に合った活動を継続的に実施することで、言葉で伝える力が増進 ③季節や行事にちなんだ遊びを取り入れた環境を工夫し継続実施することで、遊びを工夫する力が増進 2. ①園舎の環境を活かした「体力アッププラン」を見直し実施 ②年齢に適した散歩コースを開拓し園外保育が充実(86回)。園外厩を利用し次年度につながる振り返りを実施 ③体力づくりに繋がる親子遊びの情報をクラスだよりや園だよりを利用し提供(41回)		T2
保育事業の充実と業務の見直し 目標2 保育士の資質を高め円滑な園運営	1. スキルアップの為の保育研究会の促進 ①研究主題の理解と実践内容の研究 ②個を理解した成長発達等の記録と適切な評価の実施 ③保育所保育指針を活用した週案、提案資料の工夫 2. 新型コロナウイルス等の感染症防止を徹底 3. 朝礼・ホワイトボード・すぐメールを活用し職員間の共通理解と確実な情報共有 4. 危機管理体制の強化 ①ヒヤリハット表の活用による園環境の安全確保 ②施設、遊具の安全点検を実施(月1回) ③避難訓練、交通指導(月1回)、防犯訓練(年3回)の実施。命を守る避難経路や方法の見直し	1. ①提案資料を正規職員全員が作成(5回)。研究会参加により研究主題を理解し保育に反映 ②個を理解した成長発達記録と適切な評価を実施 ③保育所保育指針を活用した週案、提案資料を作成 2. コロナ感染症対策の徹底を保護者と連携。園児の意識を高める環境を工夫し実施 3. 朝礼・ホワイトボード・すぐメールを活用し伝達事項を可視化し職員間の確実な情報共有に反映 4. ①事故につながらないためのヒヤリハット表の有効活用による園環境の安全確保 ②施設、遊具の安全点検を計画通り実施(毎月) ③各訓練を計画通り実施し危機管理を徹底。命を守る避難経路や方法の見直しを随時実施		T2
地域と運動した園経営 目標3 地域力を生かした保育の推進と保育内容の充実	1. 笠原幼・保の統合及び、認定こども園の推進 ①園の現状を踏まえた検討、意見を集約し、あり方検討委員会に諮るなど双方向での情報共有 ②他市の認定こども園の運営手法の研究と、必要に応じた保護者への情報発信 2. 一貫教育充実プロジェクトの推進 ①学力向上チェックシート、生活アンケートを実施し分析結果を保護者に周知 ②活動の様子を掲載したポスター掲示や成長の姿を追ったクラスだよりを発行し保護者への情報提供促進 ③笠原校区引き取り訓練及びふれあい活動の充実 3. 地域ボランティアとの交流連携を促進し豊かな心とつながる力を育成	1. ①園の現状を踏まえ職員間検討、意見集約し、あり方検討委員会に諮るなど双方向の情報共有実施 ②他市への視察に参加、保護者へ情報発信を実施 2. ①学力向上チェックシート、生活アンケートを実施し分析結果を保護者に周知、個別懇談会に反映 ②活動の様子を掲載したポスター掲示や成長の姿を追ったクラスだよりを発行し保護者への情報提供を促進(月1～2回) ③引き取り訓練、ふれあい活動を実施 3. 畑の草取り、野菜の苗植え、収穫、焼き芋会等、地域ボランティアとの交流を通し豊かな心とつながる力の育成を実施		T3
要支援児保育の充実 目標4 要支援児に対する支援の充実と保護者支援の充実	1. 支援児保育の充実 ①対象児の姿を捉え個別支援計画を作成。記録を活かした支援内容の充実 ②ケース検討会議(月1回)の充実 ③個別懇談(年2回)を実施し家庭と連携 ④関係機関(発達支援センター、ことばの教室、保健センター、子ども支援課)と連携した支援の充実 ⑤幼保小連絡会(年1回)、スマイルブック・就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行の実施 ⑥架け橋プログラムに基づき幼保小連携の方法を模索	1. ①対象児の姿を捉え個別支援計画(16名)を作成し保護者と合意形成。記録を活かし支援内容が充実 ②ケース検討会議(毎月)を職員会で実施。支援児理解と支援の向上に直結 ③個別懇談を実施し情報を共有 ④巡回相談、園訪問、保育所等訪問事業活用により、関係機関と連携した支援が充実 ⑤幼保小連絡会、スマイルブック(11名)・就学支援シート(11名)を活用した小学校へのスムーズな移行の実施 ⑥幼保小架け橋プログラムの動画視聴実施		T3
食育計画に基づいた食育の推進 目標5 豊かな心と体を育む食育の在り方	1. 食べることを楽しみ食事を楽しむ子どもの育成 ①栽培活動、収穫体験、調理体験等直接体験を通した食育活動の充実 ②調理研(月1回)・給食委員会(年5回)食育研(年6回)の研修内容を活かした指導の充実 ③調理室の衛生管理、食品管理の徹底を実施(随時) ④クラスを巡回しての食育指導を実施 2. 「食」に対し保護者への情報提供と意識の向上 ①試食会や懇談会での情報提供 ②サンプル給食やレシピ配布による手作り料理の推進 ③アレルギー食、離乳食等保護者と連携し安全な提供を実施	1. ①収穫野菜を給食に提供(45回)。ポイントカードの活用による園児と調理員との交流により食育活動が充実。キッズクッキング実施(7回) ②研修内容を職員に伝達、食育指導に反映 ③調理室の衛生・食品管理の徹底を実施(随時) ④感染症拡大予防の観点から検食簿を利用した食育指導を実施 2. ①給食だよりを通して情報を提供(5回) ②サンプル給食(33回)を実施し手作り料理を推進 ③アレルギー食、離乳食等保護者、担任、調理員が連携し安全な提供を実施中、3重チェックによる誤食未然防止実施		T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例: 自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	養正小学校附属幼稚園
補職名・氏名	園長 加知 玲子

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	課題	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 体力づくり、心づくり、仲間づくりによる調和的な発達の育成	1. 豊かな遊びと環境構成の工夫 ①体力アッププランに基づく遊びの展開 ②多様な動きを経験できる活動や環境の工夫や、いきいき遊びを毎日実施 ③戸外の多様な環境を再構成 ④主体的な「なかよし遊び」のための連携会議（月2回） 2. PDCAサイクルによる指導の工夫 ①実態に合った指導を相談、職員間で共有（週1回） ②幼児理解に基づいた記録と適切な評価の実施（毎日） ③指導計画、アプローチカリキュラムの改善	1. ①基本動作、多様な動きを盛込んだ「体力アッププラン」を作成し(5月)、運動遊びを毎日実施 ②③パンチングボール設置や森の階段整備で遊び環境を工夫。森のお家の整備をPTAと共に実施。いきいき遊びを発達に合わせ実施(毎日) ④連携会議を実施(週1回)し、遊び環境を再構成 2. ①②学年会で幼児の遊び内容を共通理解し、実態把握、計画、実施、評価、改善をPDCAサイクルで展開。週案にエピソードや幼児の変容を記録し、保護者配布の「しるべ」に反映 ③就学前のアプローチカリキュラムを再編成。指導計画を確認し修正を実施	T2
目標2	保育事業の充実と業務の見直し 職員の資質を高め、安全な園運営	1. 園内外研修を通じた職員の資質向上 ①研究主題に沿った同僚性を高める園内研修の充実。公開保育の実施（年3回） ②園外の研究会、研修による資質向上と学びの共有 ③自園評価を実施し保育の改善を実施 2. 新型コロナウイルス等、危機管理体制の強化と安心安全な保育展開 ①ポストコロナの創意ある教育課程の編成と実施 ②新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染防止対策の徹底 ③引取り訓練（年1回）、避難訓練・交通指導（毎月）、防犯訓練（年3回）で安全教育の実施 ④施設、遊具の安全点検（毎月）	1. ①公開保育実施(4回)。東濃教育事務所の指導を受け(7月)、新主題の探求と幼児理解を推進 ②主任研、推進研、課題研、県教育センター研修、幼児研等計画通り実施。朝礼、職員会で発表し共有 ③初の自園評価を実施し、成果課題を評議員会で周知 2. ①停滞していた行事等は感染対策の上再開（親子遠足、参観・学級懇談会、園庭開放、未就園児事業、地域との交流、保護者向け講話） ②毎日の消毒、衛生教育を実施し、園内感染を抑制 ③危機管理マニュアルの見直しを実施。安全教育は計画通り実施 ④安全点検を実施(毎月)し、危険箇所を早期修繕	T2
目標3	ことばの教室の運営と指導の充実 特性に合った親子支援で幼児の発達を促進	1. 発達支援活動の充実 ①子どもの発達特徴を捉えた個別支援計画の作成 ②職員間で連携した小集団活動の工夫 ③教材の研究及び作成（月1回） 2. 安心できる親支援 ①保護者面談を実施。子育ての悩みを共有し支援 ②保護者向け学習会の実施（年1回） 3. 関係機関との連携 ①園訪問による幼稚園・保育園と連携した指導（年2回） ②療育機関と連携した会議の実施（月2回） ③専門性に基づく発達支援の研究。公開保育を実施（年1回）	1. ①個別支援計画(42名)を作成し、ねらいを基に特性に合う指導を重ね、毎週の記録を保護者と共有 ②各グループの特徴に応じ、ねらいを段階的に発展。輪番のリーダーが主となり指導を展開 ③課題に沿った教材を作成。通級研ではその工夫の高評価を獲得 2. ①指導後の保護者面談を再開。保護者の思いに寄り添い、指導に反映 ②学習会の実施で子育ての悩みが軽減した感想が多数 3. ①11園を2回ずつ訪問し、園と連携した指導の実施 ②WG、支援児研等、月2回の会議で支援の質を向上 ③公開保育(7月)に通級教室指導者21名参加。教材	T3
目標4	要支援児保育と親支援の充実 安心な保育、子育ての推進	1. 要支援児保育の充実 ①個別支援計画を作成。保護者と面談（年2回） ②支援コーディネーターを中心に毎日の記録を生かした支援の充実。ケース会議の実施（月1回） ③ユニバーサルデザイン化による保育環境の整備 ④関係機関と連携した支援の充実 2. 親支援の充実 ①園だより、HP、ポスター、クラス通信、メール配信 参観、懇談会で保育内容の理解や情報提供 ②たじっこチャレンジ（年3回）、懇談で生活の見直しと改善	1. ①個別支援計画を作成(8名)し保護者と合意形成した面談を実施(1回) ②毎週の支援記録提出で指導を共有。関係する職員間でケース会議を適宜実施 ③誰もが理解できる掲示や指導、整頓を工夫し保育を展開 ④ことばの教室、療育施設と連携した保護者支援や指導の工夫を交流(9名) 2. ①行事ポスターが保護者に好評。学級懇談会(2回)で園理解や子育ての悩み解消を推進 ②たじっこチャレンジを実施(3回)、生活習慣の見直しを保護者に啓発。効果があり新学期の生活が円滑にスタート	T3
目標5	地域と運動した園運営の充実 地域に根付いた園運営と連携	1. 地域力を生かした保育の充実 ①地域と協力、連携した保育内容の展開（保育園、小学校、中学校、高校、公民館） ②地域ボランティアとの交流 2. マイ幼稚園事業として未就園児向け園開放を年4回実施 3. 父母の会・小学校との連携 ①家庭と連携した子育ての推進（家庭教育学級年5回） ②父母の会活動の運営をサポート ③小学校への滑らかな就学を支援 ④中学校区教育懇談会で連携の強化（年2回）	1. ①養正地域会議への参加(3回)で地域での園理解を促進 ②公民館地域ボランティアと交流(5回)、園児の社会性を育成 2. 未就園児園開放を4回実施。子育て親子を繋ぐ遊びを展開 3. ①②家庭教育学級を実施(7回)。参加希望が増加、サロン型交流が好評。講話(2回)で子育ての見直しを啓発。移動動物園開催は親子で興味関心が深まり高評価 ③保護者面談を重ね、就学等支援委員会に接続。スマイルブックや訪問で小学校との連携を実施 ④中学校区教育懇談会を実施(2回)し課題を共有	T3
b	独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	昭和小学校付属幼稚園
補職名・氏名	園長 長谷川 昌子

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）		
健全な心と体を育む保育の充実 目標1 一人一人が充実館を味わうための指導、支援の充実	1. 子どもの主体性を育てる遊びの充実 ①年齢に適した感覚機能を統合する為の室内外の遊びを話し合い、体力アッププランやいきいき遊びなど年間計画を作成し、なかよし遊びやクラス活動と連動させ毎日実施 ②教育委員会と連携し体力測定(年1)、効果測定(3月)実施。成果課題を確認し、いきいき運動遊びへ反映 ③食育指導の充実 2. 親支援の充実 ①たじっこチャレンジ(年3)の活用し、通信や懇談会にて、早寝・早起き・朝ごはんの大切さを保護者に周知 ②個別懇談会(年2)、クラス懇談会(年2)を実施。保護者に寄り添い、連携を密にした保護者支援の実施	1. ①なかよし遊びやクラス遊びの年間計画を学年会(月2回)にて見直し・確認し、年齢に適した感覚機能を統合するための遊びを毎日実施 ②体力測定(6,12月)を実施、比較し、体全体の使い方や体幹の弱さなど今後の課題として確認 ③夏野菜(5種)、秋野菜(3種)を育て収穫し、家庭に持ち帰り食べることで偏食の改善を推進 2. ①たじっこチャレンジ学期ごと(年3)に記入。園と家庭にて早寝・早起き・朝ごはんの大切さを再確認 ②個別懇談(4,11月)、クラス懇談(5,2月)を実施し、保護者の悩みや園での生活・遊びについて共有、連携及び保護者支援実施	T2	
保育事業の充実と業務の見直し 目標2 円滑な園運営の推進及び質の高い保育の提供	1. 職員の資質向上のための園内外研修の実施 ①幼稚園計画や教育課程、その他指導計画を見直し、評価・課題の検証及び改善を実施 ②園内研修で幼児理解、環境構成及び指導援助を検討し、保育の見直し及び改善 ③推進研、課題研、幼児研、各種研修への参加による実践資料に基づいた園内研修実施 2. 業務負担軽減の研究及び実施 ①事務処理、各所書類の簡素化 ②見通しを踏まえた計画、教材準備及び全職員の協力体制を構築 ③職場の5S周知と定期的な確認の実施	1. ①幼稚園計画及び教育課程等を週案、学年会及び職員会で見直し、来年度に生かせるよう改善実施 ②小学校長を招き(5月)、年長児と小学校との接続を見据えた保育の見直し及び改善。教育相談室講師を招き(9月)、ことばの教室のあり方を学び、年中(10月)教育研究所、年少(12月)東濃事務所より講師を招き園内研修を実施し職員の資質向上 ③参加した各種研修会資料に基づき、職員会にて報告し共有を図り職員の資質向上を図った 2. ①事務軽減につながる改善など継続検討 ②行事の準備や流れ保育教材などを常に話し合い、職員間の協力体制を構築 ③職場の5Sを定期的に確認周知実施	T2	
要支援内容の充実 目標3 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. ことばの教室の運営と指導の充実 ①個別計画の作成及び園訪問の実施 ②園内研及び通級指導教室研修会に参加及び指導実践し、他機関との連携等による支援の充実 2. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成し、ケース検討会議(月1)にて共通理解を図り、支援をレベルアップ ②保護者との個別懇談(年2)を行い、家庭と連携 ③関係機関と連携した支援の充実 3. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流及び中学校区教育懇談会への参加 ②小学校連絡会(年1)、スマイルブック、就学支援シートを活用した学校へのスムーズな移行	1. ①個別計画を作成し園訪問実施(6月,12月) ②園内研修(9月)、通級指導教室研修会(年3回)に参加、他機関との連携等による指導の交流を行い支援を充実 2. ①個別支援計画を基にケース検討会議を行い(月1)共通理解、支援の見直し及び支援のレベルアップ ②保護者との個別懇談(年2回)実施し家庭と連携 ③幼保療育機関と訪問し、連携した支援の充実 3. ①平和中学校区、南ヶ丘中学校区教育懇談会へ参加及び小・中学校の園内研修会参加し交流 ②学校へのスムーズな移行を行うために小学校連絡会(10月)、スマイルブック引継ぎ会(1月)、就学支援シート作成	T3	
危機管理体制の強化と安心安全な保育の充実 目標4 安全教育の実施と安心で清潔な環境の提供	1. 危機管理体制の強化 ①引き取り訓練の実施、防災マニュアルの見直し ②避難訓練(月1)、交通教室(月1)、防犯訓練(年3)の実施 ③施設、遊具の安全点検(月1)、ヒヤリハットの見直しを実施 2. 新型コロナ等感染症拡大防止対策 ①保育室の換気、清掃、消毒を徹底 ②園医と連携し、園児の健康管理を徹底 ③正しい手洗いの習慣づけや予防意識を家庭へ周知 3. 安心安全な給食提供 ①アレルギー児への適切な対応及び環境整備 ②誤飲、誤食予防の体制の強化と意識向上	1 ①引き取り訓練を実施(5月)。防災マニュアルを見直し確認 ②避難訓練・交通指導(毎月)、防犯訓練(3回)実施 ③施設、遊具の安全点検(毎月)、朝礼や職員会でヒヤリハット等を話し合い、見直し実施 2 ①常に保育室の換気、清掃、消毒を徹底 ②感染症の流行等、園児欠席の増加に伴う園医との連携及び健康管理を徹底 ③正しい手洗いの習慣づけや予防意識を園だよりにて家庭へ周知 3 ①エビペンの管理、確認を家庭と職員にて周知 ②アレルギー児食の職員間での確認、机や雑巾等を別にするなどの配慮による予防体制の強化	T3	
地域に開かれた幼稚園運営の充実 目標5 地域と連携した円滑な園運営	1. 地域の教育力を生かした保育の充実 ①土岐川観察館との交流を実施し(年7)、自然体験活動を充実 ②地域の小学校や老人ホームと交流 ③地域のボランティアと連携し栽培活動を充実 ④未就園児への園庭開放 ⑤評議委員会を実施し、園運営に反映 2. 保護者の園運営及び保育理解の推進 ①ホームページ更新(月1) ②関係機関へ園だより配布(月2) ③家庭教育学級参加	1 ①土岐川観察館を訪問し、ガサガサ探検や生き物とのふれあいなど交流し(7回)、自然体験を充実 ②昭和の小の園内研修参加、幼稚園内研修に小学校担任が参加。小学1年生との交流(1月)、老人ホームとの手紙などのやりとりを行い、心の育ち等の交流 ③地域ボランティア都合により中断。計画の見直しを検討 ④未就園児への園庭開放実施(7,9,12月) ⑤評議委員会を実施し(6,2月)、園での活動や地域の情報交換、交流 2. ①ホームページを更新し(毎月)、園の情報提供 ②園だより(月2回)で園運営及び保育理解を促進 ③家庭教育学級(5回)実施	T3	
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	明和幼稚園
補職名・氏名	園長 渡邊 恵子

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	課題	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 一人一人が充実感を味わうための指導の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①多様な動きを身に着けることができるような、いきいき運動遊びを毎日実施 ②地域の自然を活用した戸外活動による体力向上 ③ボール投げ、立ち幅跳び、握力を測定(年1回)、成果を確認(3月) ④保護者へ健康・体力づくりの情報を提供 ⑤教材等を作成し、実践。保護者アンケート(年1回)を実施。効果の確認と分析を実施、周知 2. なかよし遊びの充実 ①実践しながら毎日記録を作成、検証。新たな取り組みを計画、実践 ②遊びこむための素材や環境を充実	1. ①子どもの発達に合わせた遊びを毎日検討・実施。学年会(月2回)で振り返り次の活動を充実 ②わんぱく山に定期的に出かけ、足腰強化を推進 ③体力測定実施(6月)。結果を基に遊びの検討実施 ④保健だより、クラスだよりにて周知し意識を向上 ⑤子どもの成長に合わせた教材を作成、実践。懇談にて保護者の意見を踏まえて成果の確認を実施 2. ①日々の遊びについての交流・検討を行い、年間計画を随時見直し、遊びを計画、実践 ②通信、園だよりにおいて子どもの姿を定期的に発信することで家庭と連携し、素材の提供や遊びの共感を促進。毎日の振り返りを参考にした環境準備を実施	T2
目標2	保育事業の充実と業務の見直し 保育士の資質向上と親育ち4363と連動した親支援の充実	1. 保育資質向上と業務の見直し ①園内研(年3回)を実施。保育内容を発展、充実 ②各種研修会に参加し交流しあうことで、保育内容および資質の向上 ③ポストコロナにおける保育内容の検討と実施 ④園児、職員の負担軽減のため行事・地域交流の日程や取り組み方を見直し、即時検証 2. 親支援の推進 ①たじっこチャレンジ(年3回)を実施し、統計をもとに保護者へ周知 ②園だより、通信、懇談会を利用し、生活習慣の向上につながる情報を発信	1. ①園内研を実施(9月)。教育研究所、元園長を講師に招き実施(11月、12月)し保育の質を向上 ②各種研修会に参加(対面、オンライン等)し、報告により職員間共有を行い、保育の質を向上 ③感染予防対策を徹底した保育内容を検討。昨年中止していた恒例行事等を実施(参観、プール、運動会) ④職員が年休取得しやすい環境を作り、職員間での協力体制を推進 2. ①たじっこチャレンジ実施(3回)。常に保護者が確認できるよう周知。懇談会にて成果・課題を確認 ②生活習慣向上に関し、懇談会資料、クラスだより、園だよりにて保護者に定期的周知、意識を向上	T3
目標3	要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 支援の充実 ①発達を踏まえた個別支援計画を作成 ②ケース検討会議(月1回)を開催 ③就学相談など保護者との個別懇談を適宜実施 ④関係機関(発達支援センター、ことばの教室、保健センター)と連携した支援の充実 ⑤訪問支援を活用することで支援教育力を向上 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流を実施 ②中学校区教育懇談会(年2回)、連絡会(年1回)、各小学校との職員交流を実施 ③小学校と連絡を取り合い、就学後の姿を交流	1. ①保護者面談を実施し(5月)、共通理解のもと計画を作成。成果の確認を実施(3月予定)。 ②ケース検討会議を毎月実施。園児の姿や支援方法を確認、振り返り、日々の保育を充実 ③支援コーディネータを中心に、保護者との面談を実施し、保護者理解のもと就学先を選定 ④療育現場での研修内容を職員間で共有(8月)することで、支援内容を向上 ⑤専門的な助言を受け、それを参考に支援を実施 2. ①③コロナ感染状況を踏まえ実施予定。支援コーディネーターの各施設視察を通して支援の交流を実施。 ②学校毎の問題点から共通取組事項を話し合い実施	T2
目標4	危機管理体制の強化と安全な保育の実践 安全教育の実施のための環境整備	1. 危機管理体制の強化 ①施設、遊具の安全点検を毎月実施 ②避難訓練、交通指導(毎月)、防犯訓練(年4回)を実施 ③保護者会と連携、消防職員によるAED講習実施 2. 安心安全な保育の実施 ①感染症(コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等)拡大防止のための環境整備(清掃、換気、消毒)を徹底 ②食物アレルギー児への適切な対応の徹底 ③うがい、手洗いの習慣づけ、および家庭に向け予防意識の周知、正確な情報を発信	1. ①安全な保育環境の構築、整備に向け毎月実施 ②避難訓練・交通指導(毎月)、防犯訓練(4回)を実施し、職員、園児の危機管理意識の向上を促進 ③コロナ感染状況を踏まえ、希望者にて実施(6月) 2. ①清掃、消毒、換気の徹底。施設への入場制限の実施。コロナ感染対策を意識した視覚的な環境を整備 ②アレルギーチェックを3段階で実施し、安全な給食を提供。 ③日々の保育における視覚的な環境整備、啓蒙実施。園だよりやクラスだよりなどで必要性を保護者へ周知	T3
目標5	地域に開かれた幼稚園運営の充実 地域と密着した幼稚園運営の充実	1. 地域と連携した園運営 ①ボランティアを継続活用、絵本読み聞かせ(月1回)、パトロール随時、木製玩具交流 ②野菜作り、正月遊び、草花遊びなどで交流 2. 地域に根ざした幼稚園の構築 ①小学校3回、中学校1回、児童館2回、多容荘2回、保育園3回、園児との世代間交流の検討と実施 ②各連絡会議・評議員会にて連携 ③実践報告を地域に発信 ④利用者等からの意見への丁寧な対応の徹底	1. ①保護者ボランティア、交通安全指導、園周辺の安全指導及び木製玩具交流により地域との連携を強化 ②感染拡大防止対応状況に応じた感染予防対応を整え、地域老人による栽培指導を実施(随時、電話による指導) 2. ①地域ふれあいセンターを訪問し、交流(地域探検、クリスマスリースプレゼント) ②3回評議員会を開催(6月、10月、2月)。意見、指導をもとに保育の見直しと充実 ③「わんぱくやまだより」を作成し、地域に回覧し、園活動を周知(7月、12月、3月) ④保護者からの意見について、迅速対応を実施	T3
b	独自目標加算 (任意設定) 例: 自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	笠原小学校附属幼稚園
補職名・氏名	園長 大塚 みゆき

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	課題	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 体を動かす心地よさと充実感による体力の向上と意欲を引き出す保育の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成、体力向上を意識した年齢に合った取組を職員間で検討し、毎日実施。 ②幼児期運動指針に基づいた「幼児期に経験する28の基本的な動き」を取り入れた遊びの実施 ③思わず体を動かしたくなるような環境構成と用具の活用の工夫 ④体力テストを実施（2回）し、効果分析結果を確認 2. 発達に合わせた保育の充実 ①季節、環境を生かした体験活動や遊びを検討の上、計画的に実施 ②自然・体験活動・食育活動・造形活動・世代間交流等を通じ意欲の向上と心の育成	1. ①体力アッププランに基づく計画案に沿って毎日実施。体力測定結果を分析し効果を確認 ②幼児期運動指針を職員会にて確認。年齢に合わせた28の基本的な動きを意識した遊びを継続的に実施し、体力向上を確認 ③リズム講習会を実施し実践。季節や子どもの興味に合わせた内容、環境構成を工夫し実施 ④体力テストを実施（7月・12月）。効果分析結果を確認報告し、保護者へ周知 2. ①季節や環境を活かした遊びを学年会で検討（月2回）し実施。子供の姿を交流し保育に反映 ②ボール遊びや栽培活動、伝統行事を実施。期待が持てる活動と世代間交流等で心を育成し意欲向上	T2
目標2	保育事業の充実と業務の見直し 保育士の資質向上及び安全管理	1. 保育士の資質向上 ①保育力の向上を図るため、外部講師による園内研修を実施（3回） ②各種研究会での学びを職員間共有し、共通理解を図り保育で実践 ③職員間で子どもの捉えを交流し、共通理解と連携。 ④なかよし遊びの内容の工夫と環境整備による保育内容の充実。 2. 新型コロナ等感染防止対策の徹底 ①各種感染症の正しい理解と防止策の徹底実施 ②正しい手洗い、うがいの指導とマスク着用の徹底 ③ポストコロナにおける教育活動を見直し、工夫した取組を実施。	1. ①外部講師の園内研を実施（3回）。公開保育、研究会での意見交流、講師助言を得て資質向上 ②各種研究会、研修での学びを職員会に周知。園内講習を実施し（2回）、保育力向上を促進 ③学年、職員会及びケース会議等で子供の捉えを認識。今後の課題を共有し連携がとれた保育を実施 ④課題研で得た情報や知識を職員に周知。園内での遊びの内容に反映させ、遊びが充実 2. ①コロナ感染予防の各種情報を職員間で共通理解を図る。園での取り組みをその都度検討し実施 ②子供の見守りと状況を確認し、正しい方法を指導 ③情報を収集しやり方を検討。様々な行事を実施	T2
目標3	園の統合及び、認定こども園に向けた推進 あり方検討委員会での周知と検討及び地域力を生かした保育の推進	1. 笠原幼・保の統合及び、認定こども園の推進 ①園の現状を踏まえた検討、意見を集約し、あり方検討委員会に諮り、その結果を職員に共有する等、双方向での情報を共有 ②他市の認定こども園の運営を学習しスムーズな移行を推進 ③支援課と連携し必要に応じて保護者へ進捗状況を発信し、保護者理解を推進 2. 地域性を生かした交流 ①笠原校区一貫教育（英語・学力向上・道徳・読書活動）で幼保小中で連携が取れた教育の充実 ②評議委員会（年3回実施）での園活動の周知と理解	1. ①現状把握と、今後のあり方を職員間で検討し、意見を集約の上、あり方検討委員会に反映。今後の方針、動向を理解し職員に周知 ②市外への視察を行い学習。園運営、保育環境、実施までの取組等に反映 ③支援課と連携し必要に応じて保護者へ進捗状況を発信。地域説明会に参加（1月）。保護者理解を推進 2. ①笠原校区一貫教育のはじめの会に職員5名参加。幼保小中連携一貫教育実施。保護者に意義を説明し、連携を図り教育を充実 ②評議委員会を実施（3回）。意見、指摘事項について今後の園運営、活動に反映	T3
目標4	親支援の充実 親育ち4363と連動した親支援の充実	1. 保護者支援の充実 ①園だよりや懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②個別懇談（年3回）や送迎時に家庭の状況を把握。一人一人に対応し保護者をサポート。子育て力の向上 ③通信を通して保護者の保育内容への理解協力の推進。基本的生活習慣の大切さを啓発 ④支援児に対し個別支援計画を作成。保護者との個別懇談（年2回以上）で家庭と連携した保育を実施 2. 保護者へ運動遊びを情報提供・推進 ①家庭への体力向上の重要性の周知 ②家庭内で取り組める運動遊びの紹介推進	1. ①園だより、懇談会資料、かさはらっこだより、一貫教育充実プロジェクトで早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知。アンケートを実施し（2回）、保護者の意識確認 ②個別懇談（2回）や送迎時に園と家庭の状況を情報交流。一人一人に合わせた保護者支援を実施 ③懇談会、通信、かさはらっこだよりや行事ポスターを通して保育内容への理解を推進。基本的生活習慣の大切さを啓発し保護者支援を充実 ④支援児の個別支援計画を作成（7名）。保護者との個別懇談を実施し、家庭と連携した保育を推進 2. ①家庭へ体力向上の重要性を懇談や通信で周知 ②家庭での運動遊びを園だよりや通信で紹介	T3
目標5	安全な保育の実施 打ち合わせや訓練により安全、安心な保育の実施	1. 危機管理体制の強化 ①避難訓練、交通安全指導、施設・遊具点検（月1回）防犯訓練（年4回）実施 ②笠原校区幼保小の引取訓練の実施 ③職員会にてヒヤリハットの交流・共通理解。環境整備を実施 ④保育室の環境整備・点検を（毎週）実施 2. 安心安全な給食の提供 ①職員保護者と連携し、アレルギー児の誤食予防体制強化。エビベン取り扱いの園内講習会の実施 ②衛生・食品管理の徹底と安全・安心な給食提供	1. ①避難訓練、交通安全指導、施設・遊具点検、防犯訓練を計画通り実施。園内で消防卓上訓練実施 ②笠原校区幼保小の引き取り訓練を実施。振り返りにより問題点をまとめ今後活用 ③毎日の朝礼や職員会においてヒヤリハットを共有し共通理解を醸成。環境整備の確認を実施 ④保育室の環境整備・点検を毎日実施。状況に合わせてコロナ対策を検討し実施 2. ①朝礼で給食、アレルギーの有無を確認。エビベンについて管理表を基に受け渡しを確認し、取り扱いを正確に実施。職員研修で取り扱いを学習 ②夏場の給食時間に細心の注意を払い、衛生・食品管理の徹底と安全・安心な給食を提供	T3
b	独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称

星ヶ台保育園

補職名・氏名

園長 長谷川 邦代

組織目標兼管理職個人目標

課題		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 子どもの主体性を育てる援助と対応 ①子どもの体力向上のため年齢の目標を明確にし、指導計画（体力アッププラン）を作成 ②体力アッププランを活用し、見通しを持っていきいき運動遊びを毎日実施 ③体力測定を行い体力向上の効果を確認(年2回) ④子どもの実態に合った保育内容と環境の工夫 2. 保育士の資質向上のための研修の実施 ①保育研究会、専門研修、各種研修会に参加し保育士の資質向上と保育内容の充実 ②保育記録の取り方、活かし方を学び保育を充実 ③岐阜県保育研究会で研究の成果を発表	1. ①子どもの実態に即した指導計画を作成し、毎日実施できるよう保育計画に活用 ②体力アッププランに沿った運動遊びを実施(毎日)。保育用具や活動内容を工夫し子どもの体力が増進 ③体力測定を実施(7・11月)。数値向上を確認 ④子どもの興味や実態に合わせ遊びを工夫。友達と刺激しあう環境や発表の場をつくり意欲が向上 2. ①保育研究会・各種研修会にて、保育士の資質が向上。職員会で共通理解し園全体の保育に反映 ②日々の保育記録、個別計画、クラス日より等により簡潔な記載方法を園長・副園長が指導 ③園長会のサポート副園長会の推進により、PDCAサイクルを明確にした研究のまとめを発表	T2
	一人一人が充実感を味わうための指導の実施			
目標2	保育事業の充実と業務の見直し	1. 専門性を生かした保育の提案と充実 ①園庭開放、出張保育の実施 ②地域と連携した交流活動の実施 ③行事ポスター・HPを活用した事業の発信 2. 家庭と連携した保育の充実 ①園だより、クラス通信、参観及び懇談会で保育内容を周知 ②早寝・早起き・朝ごはんの啓発で生活習慣の見直しと改善 ③家庭の日と連動したN0テレビ・N0ゲームの日を家庭での取り組みとして提案	1. ①園庭開放(6回)、出張保育(6回)を実施。未満児クラス担任が日々の保育や保護者支援のアイデアを伝達 ②児童館、公民館と連携し交流活動を実施 ③行事ポスターの掲示(17回)と、HPで事業報告を発信 2. ①園便りの発信と参観懇談にて保護者へ保育内容を周知。成長の姿を共有 ②朝ごはんアンケート・生活習慣アンケートを実施。結果を集計し改善のアイデアを保護者へ啓発 ③家庭の日及び、N0テレビ・N0ゲームの日の啓発。家庭でできるふれあい遊びの提案とアンケート実施により保護者の意識が定着	T3
	業務内容の充実と専門性を生かした園運営			
目標3	要支援児保育の充実	1. 要支援児保育の充実 ①記録を生かした個別支援計画を作成。支援内容の充実と実施 ②関係機関（発達支援センター・ことばの教室・保健センター）と連携した支援の充実 ③ケース会議を実施し、個別の課題を明確にし、日々の保育に反映 ④自己充実味の味あえる保育のための小集団保育の実施 2. 要支援児保護者への支援を充実 ①保護者への声掛け・面談、信頼関係の構築 ②個別支援計画、支援シートを作成し保護者と共有し、保育内容に反映	1. ①個別支援計画を作成し成長の姿に合わせた支援を随時修正し充実 ②関係機関と連携。成長の姿や保護者の情報を共有し個別の支援が充実 ③ケース会議を随時実施。個の姿を交流することで課題を明確にし日々の支援が充実 ④一人一人が楽しみ、自己肯定感と充実感を得られる小集団活動を実施(5回) 2. ①保護者と信頼関係を構築し、声掛け・面談をこまめに実施 ②支援計画に関する面談を実施。保護者の願いを支援内容に反映。就学支援シートを作成し保護者と共有。小学校への引継ぎで連携強化	T2
	児の理解を基にした支援内容の充実と、他機関との連携			
目標4	安心安全な給食の提供と食育の充実	1. 栽培活動の実施 ①年齢に合った栽培計画の立案と実施 ②収穫野菜を生かしたメニューの提案 2. 調理員と連携した食育の推進 ①安全で温かい給食の提供 ②食べることの意識とマナーの向上 ③バイキング給食の実施と食育指導 ④給食委員会に参加し他園と交流 ⑤園だよりに食育についての記事を掲載 3. 離乳食、アレルギー食の提供 ①アレルギー児への適切な対応とチェック体制の強化で安全に提供 ②子供一人一人に合わせた給食（離乳食）の提供	1. ①年齢に合った栽培活動を実施 ②調理員と連携し園での収穫野菜を生かしたメニューを提案し給食で実食、味わうことで食育を推進 2. ①適温、安全に管理された給食の提供 ②コロナに配慮しながら、楽しい食事とマナーの向上を各クラスで実施 ③バイキングメニューを立案(6月)。年齢に合わせた食育指導と季節を考慮したバイキングを実施 ④給食委員会に代表が参加。各園の実践を交流し食育活動に反映 ⑤調理員と連携し園だよりに食育の記事を掲載 3. ①朝礼実施でアレルギーのチェック体制を強化 ②個に合わせた給食の提供を実施	T3
	子ども食生活と健全な心身の成長を図る食育の推進			
目標5	安全管理・子どもの人権を守る保育の実施	1. 職員間の連携強化 ①朝礼の実施と、職員間の『報・連・相』を徹底 ②子どもの人権を守るための基礎知識とモラルの習得 ③連絡ボードの活用で見通しを持った保育の実施 2. 危機管理体制の強化 ①保護者と連携した新型コロナ等感染症対策、予防の徹底 ②交通指導・避難訓練・防犯訓練・午睡チェックの実施と振り返り ③施設内の巡回と安全点検（毎週）の実施	1. ①朝礼により全職員へ伝達事項を常に周知 ②子どもの人権を守る意識について職員会で周知。不適切保育に関する研修受講で知識習得し職員の意識が向上 ③連絡ボードでクラス活動を全職員でサポート 2. ①コロナ感染に関する情報をその都度保護者へ周知。支援課と連携し感染対策と予防を徹底 ②各種訓練を計画的に実施。ヒヤリハット事例の周知と訓練の振り返り・保育士間の連携のチェックと解決策で重大事故を防止 ③安全点検を毎週実施。異常発見時には速やかに支援課へ報告、改善を実施	T3
	保育環境の安全と安心な保育の実施			
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	精華小学校附属愛児幼稚園
補職名・氏名	園長 水野 恵美子

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標	課題	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 一人一人が充実感を味わうための指導、支援の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①園舎の環境に合わせた「体力アッププラン」を作成。新たな遊びや教材等を工夫し、いきいき運動遊びを毎日実施 ②巧みに動く体作りに向けた検討を職員間で実施し、共通理解を醸成 ③教育委員会と連携し、体力測定を実施(年1回)し、成果を確認(3月) ④保護者へ健康・体力づくりの情報を提供 2. なかよし遊びの充実 ①定期的に職員間で話し合い、共通理解 ②夢中になって遊べるなかよし遊びの環境を工夫し、友達との関わりや遊びを工夫する力を増進	1. ①「体力アッププラン」を見直し・作成(5月)し、遊びや教材を工夫し、年齢に合ったいきいき運動遊びを実施(毎日) ②子どもの現状を把握し、職員間で検討。体作りに向けて共通理解 ③教育委員会と連携し体力測定を実施(7月)。園独自の体力測定も実施(12月,2月)。年度末に成果を確認予定 ④園だよりで保護者に情報提供(6回) 2. ①子どもの様子・関わり・育ちを職員間で話し合い共通理解し、実践(毎月) ②なかよし遊びの計画を再検討。環境を工夫し、友達との関わりや自ら遊びを工夫する力を増進	T2
目標2	保育事業の充実と業務の見直し 保育士の資質を高め円滑な園運営の推進	1. 保育事業の充実 ①年齢に応じた指導計画の工夫と改善の実施 ②研究主題の理解と実践内容の研究 ③個を理解した成長発達等の記録と適切な評価 ④接続カリキュラムを見直し、小学校との接続を充実 2. 円滑な園運営のための業務改善 ①朝礼を活用した職員間の共通理解、連絡、周知の徹底(職員会の時間短縮) ②学年会、職員会の活用を工夫(職員会の時間短縮) ③年間計画・行事の見直し ④職員の年休取得率向上のため、年間計画を見通した適切な人員配置	1. ①教育課程・指導計画の改善を実施(5月) ②園内研を実施(8回)。幼児理解・指導援助・環境構成を検討、実践。次年度の研究に向けて継続 ③個の理解を深め、週案・エビソード・提案資料を作成し、職員間で交流。保育者の評価力が向上 ④接続カリキュラムを見直し、小学校との接続を充実 2. ①朝礼を活用し、報告・行事・アレルギー等の確認し、職員間の共通理解と周知の徹底を強化 ②事前協議を実施、職員会の時間短縮と共通理解を促進 ③年間計画や行事を見直し、実行 ④職員の年休取得向上のため、取得しやすい環境づくりと職員間の協力体制を推進	T2
目標3	要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と保護者支援の充実	1. 医療的ケア児を含めた支援児保育の充実 ①医療的ケアに関し職員間で学習、共通理解を醸成 ②安心・安全な環境構成と支援の充実 ③発達の特徴を理解し個別支援計画を作成。記録やケース検討会議(月1回)を生かした支援内容の充実 ④個別懇談(年2回)を実施し家庭と連携 ⑤関係機関(各療育機関、保健センター、子ども支援課等)と連携した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流を実施(年2回) ②中学校区教育懇談会(年2回)、連絡会(年1回)、スマイルブック・就学支援シートを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①医療的ケア児について、その都度職員間で学習・共有し、共通理解を醸成 ②医療的ケア児家庭2名と随時面談し、安心・安全な環境構成を実施。発達支援委員会に参加 ③発達の特徴を職員間で共通理解、個別支援計画を作成。ケース検討会議(月1回)実施、支援の充実 ④必要に応じ個別懇談を実施し家庭と連携支援強化 ⑤各関係機関(医療機関を含む)に必要なに応じて訪問し、連携及び支援の充実 2. ①園内研、園だより(月2回)を通じて交流実施 ②中学校区教育懇談会(2回)実施。スマイルブック、就学支援シートを活用できるよう保護者に周知。小学校・特別支援学校へのスムーズな移行を実施	T2
目標4	親支援の充実 親育ち4・3・6・3と連動した親支援の充実	1. 保護者支援の充実 ①園だより、クラス通信、学級懇談会、個別懇談を実施し家庭との連携を強化 ②職員間で話し合い、保護者支援の共通理解 ③園生活や行事の様子をポスター・HPで発信 2. 早寝・早起き・朝ごはんの推進 ①園だより(年3回)や懇談会(年2回)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②クラスや年齢に応じた内容を検討し、保護者アンケート(年1回)を実施 ③アンケート結果を分析して保護者に周知	1. ①園だより、クラス通信、学級懇談会及び個別懇談を実施し家庭との連携を強化 ②保護者支援について職員間で話し合い共通理解を醸成 ③園生活や行事の様子をポスター、HPで発信 2. ①園だより(6回)や懇談会(2回)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②クラスや年齢に応じた内容を検討し、保護者アンケート(2回)を実施 ③アンケート結果をクラス別で集計。結果を保育参観懇談会(6月,2月)の資料として保護者に周知	T3
目標5	危機管理体制の強化と安心安全な保育の充実 安全教育の実施と安心で清潔な環境の提供	1. 感染症対策 ①新型コロナ・インフルエンザ・ノロ等感染症に応じた対策の徹底 ②保育室の換気、清掃、消毒を実施 ③正しい手洗い・うがいの指導を実施。習慣づけと予防の意識を家庭へも周知 ④園医と連携し、園児の健康管理を徹底 2. 危機管理体制の強化 ①施設・遊具の安全点検を実施(月1回) ②環境整備とヒヤリハット表の作成 ③引き取り訓練の実施(年2回) 命を守る訓練・交通指導(月1回)、防犯訓練(年3回)の実施、避難経路の見直し	1. ①健康チェック表の確認(毎日) 異常の場合は保護者に聞きとり、感染拡大を未然に防止 ②保育室の換気、清掃、消毒を実施(毎日) ③正しい手洗い・うがいの指導を実施。習慣づけと予防の意識を家庭へも周知 ④園医と連携し、園児の健康管理を徹底。 2. ①施設・遊具の安全点検を実施(月1回) ②日直巡回(毎日)と安全点検で環境を確認。必要に応じて環境整備 ③引き取り訓練(1回)、命を守る訓練・交通指導(月1回)の実施、避難経路の見直し	T3
b	独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	(目標設定)	(成果)	